

ヒツジグサ		<i>Nymphaea tetragona</i> Georgi	準絶滅危惧
			スイレン科
選定理由	生育地と個体数がかなり減少しており、この状況が続くと個体群の維持が危うくなり、絶滅する可能性が出てくる。		写真(高橋弘)
形態の特徴	葉は楕円形から円形、時に卵形、基部の切れ込む角度は約45度からほぼ0度まで変異がある。葉の大きさも、長さ5-20 cmと変異が大きい。花の直径は4-6cm。昼間に開き、夕方閉じるという開閉運動をする。		
生態的特徴	標高1000 m 以下の湖沼に生育する。花期は6-10月。		
分布状況	東アジアからインド、ヨーロッパに分布し、日本でも北海道から九州まで広く分布する。岐阜県では県北に少しと県南の中部と東部にある。		
減少要因	開発による湖沼の埋め立てと採取、及び水質の悪化が考えられる。		
保全対策	生育地の保全と採取の禁止。		
特記事項			
参考文献			

文責: 高橋弘